

## トマト灰色かび病 (病原菌 : *Botrytis cinerea* Persoon : Fries)

### ○ 被害と発生生態

本病は、糸状菌によって起こる病害で主に花、果実での発生が多いが茎や葉にも発生する。

開花後の花卉に灰色のビロード状のカビが密生し、花落部から果実全体に広がる。葉には褐色の円形病斑を生じ、茎では暗褐色水浸状の円形病斑を生じ、病勢が進むとそれより上部が枯死する。

また、果実にはゴーストスポットと呼ばれる直径1～2mmの白色円形の小斑点を生ずることがある。

本病原菌の生育適温は、23℃であり、初春から梅雨、秋雨の多湿条件となりやすい時期にハウス栽培を中心に発生する。病原菌は、菌糸、分生子の形で被害植物や有機物の中で腐生的に繁殖・生存しており伝染源となる。

### ○ 防除方法

#### (ア) 耕種・物理的防除

- ・過度な密植にならないようにする。
- ・多湿状態にならないよう換気に注意する。
- ・軟弱な生育にならないよう肥培管理を適正に行う。
- ・発病果や発病葉、開花後の花卉は速やかにほ場外に除去する。

#### (イ) 薬剤防除

- ・ほ場をよく観察し、発生が認められたら直ぐに散布を行う。
- ・薬剤耐性菌の出現防止のため、同一系統の薬剤の輪用および連用を避ける。
- ・県内全域でベノミル、ポリオキシンは耐性菌の発生が認められている。



葉での発病の様子



茎での発病の様子



ゴーストスポット